# Meta Media

**1995年1月21日土—3月26日日**

## 総合開館記念展——メタ・メディア

## 飯村隆彦のメディア・インスタレーション

**TAKAHIKO IIMURA**
**MEDIA INSTALLATION**

開館時間——午前10時～午後6時
金曜日は午後9時まで
（入館は閉館の30分前まで）
休館日——毎週月曜日
観覧料——一般・大学生500円（400円）
小・中・高校生250円（200円）
（）内は20名以上の団体料金
会場——地下1階映像展示室
主催——東京都写真美術館
協力——ソニーPCL株式会社
名古屋造形芸術大学

東京都写真美術館

# あいうえおん

---

## 総合開館記念展——メタ・メディア

# 飯村隆彦のメディア・インスタレーション

本展覧会は，1960年に初めて8ミリカメラを手にし，個人による映画製作を始め，実験映画と呼ばれる分野を切り開いたパイオニアとして知られる映像作家・飯村隆彦氏の作品によるインスタレーションと作品上映で構成されています。飯村氏は，60年代のオノ・ヨーコ，土方巽ら前衛芸術家と活動を共にし，大林宣彦，ドナルド・リチーらと実験映画集団「フィルム・アンデパンダン」を結成，数々の作品を発表する一方ニューヨーク近代美術館やポンピドゥ・センターなど海外でも活躍し，国際的な評価を受けてきました。
本展覧会では，ビデオにおける映像の記号学的な分析，言葉と映像により自らのアイデンティティを問う作品，フィルムにおける時間と論理をテーマとするコンセプチュアルな作品，また，数々の著作などでメディアを問題にしてきた氏が，メディアを超越する「メタ・メディア」の視点からポスト・モダンの芸術の可能性を追求するものです。出品作のうち「あいうえおん六面相」は，昨年のISEA94（国際電子芸術シンポジウム）に招待された作品をもとに本展覧会のために新しく制作されたものです。
その他，ニューヨーク・グッゲンハイム美術館などで開催の日本前衛美術展に出品された作品「TV FOR TV」と，久しぶりのフィルム・インスタレーションとなる新作「線としての映画」を展示いたします。
なお，会期中に飯村隆彦氏によるパフォーマンスおよびフィルムとビデオの上映を予定しております。スケジュール表でご確認のうえご覧ください。

### 1. フィルムとビデオ・インスタレーション（B1映像展示室）

**■「あいうえおん六面相」（ビデオ・インスタレーション）**
日本語の母音「あいうえお」に「ん」を加えた六つの声それぞれに，おかしな面相を伴って順次に繰り返されるおかしな，おかしなマルチ・ビデオ。さらに声とLIPの形がずれて合わない？ 奇妙な音とイメージの差延（ずれ）ビデオ。さらに観客の参加が加わる初めてのインタラクティブ・バージョン。（協力：ソニーPCL株式会社）

**■「TV FOR TV」（テレビ・インスタレーション）**
2台の異なったチャンネルを放送するテレビが至近距離で向き合うテレビのためのテレビ。放送という制度をオブジェ化した作品，あるいは，ボックスとしてのテレビへのオマージュ。

**■「線としての映画」（フィルム・インスタレーション）**
スクラッチされた一本の線のあるエンドレスのループ・フィルムが，20-30本，天井から吊り下がり，数台の映写機により投影されるマルチ・プロダクション。毎日，ループ・フィルムの上映が変わります。ループ上映作品：飯村隆彦「AI（LOVE）」「カメラ・マッサージ」他，マルセル・デュシャン「アネミック・シネマ」，ハンス・リヒター「リズム21」，バイキン・エゲリング「対角線交響曲」など（以上の部分上映）リニアからノン・リニアに至る映画の再評価であり，線の響宴です。

### 2. フィルムとビデオテープ作品上映（1Fホール及B1学習室）

1962年に「くず」を制作して以来，実験映画のパイオニアの一人として，初期のネオ・ダダ的なファウンド・フィルムから，エロティックなイメージ映画，ニューヨーク移動後のミニマルな構造映画，時間をテーマとするコンセプチュアルなフィルムなど，30年以上のキャリアから主要作品を選択。1970年，ニューヨークから帰国して，いち早くビデオを始め，日本のビデオ・アートの先鞭をつけた，初期の「見ること」の構造を解明するコンセプチュアル・ビデオ，「私」にこだわって，モニターとの鏡像におけるビデオのアイデンティティを問う作品，さらに，自らのパフォーマンスを記録したビデオ，風景に新しいアプローチを切り開いた環境ビデオに至る多様な展開を上映します。（各プログラム約1時間半）

**■フィルム上映プログラム（F1-F6）**

F1 ネオ・ダダとハプニング［1］（99分）
「くず」（12分/62年），「ダダ62」（10分/62年），「あんま」（13分/63年），「バラ色ダンス」（13分/62年），「さかさま」（14分/63年），「タカとアロ」（13分/66年），「私は影を見た」（13分/66年），「パシフィック・オーシャン」（11分/71年）

F2 ネオ・ダダとハプニング［2］（89分）
「視姦について」（10分/62年），「AI（LOVE）」（10分/62年），「いろ」（10分/62年），「オナン」（7分/63年），「リリパット王国舞踏会」（12分/64年），「キリ」（5分/70年），「ニューヨーク・シーン」（35分/66-67年）

F3 ポップとエロス（94分）
「フラワーズ」（12分/68年），「カメラ・マッサージ」（6分/68年），「サマー・ハプニングス・U.S.A.」（28分/67-68年），「フェイス」（22分/68-69年），「アイ・ラブ・ユー」（8分/70年），「バージン」（18分/68年）

F4 ミニマル・シネマ（94分）
「フィルム・ストリップス」（24分/66-70年），「フィルムメーカーズ」（28分/69年），「イン・ザ・リバー」（17分/69-70年），「シャッター」（25分/71年）

F5 セリアル・フィルム（87分）
「モデルズ（リール1）」（43分/72年），「モデルズ（リール2）」（44分/72年）

F6 コンセプチュアル・フィルム（93分）
「1秒間24コマ」（12分/75-78年），「シンタ・サウンド」（9分/77年），「1コマの長さ」（12分/77年），「反復し/逆行する時間」（12分/80年），「トーキング・イン・ニューヨーク」（18分/80年），「トーキング・ピクチャー（映画を見ることの構造）」（15分/81年），「間：竜安寺石庭の時/空間」（16分/89年）

**■ビデオ上映プログラム（V1-V6）**

V1 見ること見られること（90分）
「椅子」（5分/抜粋/70年），「プリンキング」（5分/抜粋/70年），「タイム・トンネル」（5分/抜粋/71年），「カメラ・モニター・フレーム」（11分/抜粋/76年），「オブザーバー/オブザード」（10分/抜粋/75年），「オブザーバー/オブザーブド/オブザーバー」（11分/抜粋/76年），「視覚的論理（と非論理）」（18分/77年），「私自身に話すこと：現象学的作用」（17分/78年），「ダブル・アイデンティティーズ」（8分/79年）

V2 「私」について（82分）
「これはこれを撮影するカメラである」（7分/82年），「ビデオ自己紹介」（10分/82年），「ビデオ直面相」（9分/82年），「ビデオ・ジェスチャー」（9分/82年），「アー・イ・ウ・エ・オン」（10分/82年），「お前自身の背後を照らす」（9分/83年），「ロビーナ・ローズと私」（12分/83年），「ビデオによる会話」（16分/83年）

V3 風景の冒険（85分）
「ハッピー・ハロウィン」（11分/83年），「ニューヨーク・ホットスプリングス」（10分/84年），「エアース・ロック」（20分/84年），「モメンツ・アット・ザ・ロック」（12分/84年），「モネ・ガーデン・シンセサイズド」（15分/88年），「死ぬのが怖い」（17分/89年）

V4 パフォーマンスと言葉（90分）
「トーキング・イン・ニューヨーク・アット・PSi」（11分/85年），「ジョン・ケージ・パフォームス・ジェイムス・ジョイス」（10分/85年），「アラカワ」（11分/86年），「ダブル・ポートレート」（6分/73-87年），「アイ・ラブ・ユー」（5分/73-87年），「私があなたを見るようにあなたは私を見る」（10分/90年），「フルクサス・リアレイト」（30分/91年），「ダブル・アイデンティティーズ2」（7分/93年）

V5 イメージの光景（86分）
「睡蓮の庭の方へ」（31分/90年），「ニューヨーク・デイ・アンド・ナイト」（55分/89年）

V6 コラボレーション（74分）
「スカイ・アンド・グラウンド」（59分/91-93年），「あいうえおん六面相」（7分/93年），「パフォーマンスあいうえおん六面相」（8分/94年）

| 上映場所 | ホール（1F） | | | 学習室（B1F） | |
|---|---|---|---|---|---|
| 上映時間 | 14:00～ | 16:00～ | 18:00～ | 14:00～ | 16:00～ |
| 1/22(日) | 14:00～パフォーマンス（映像展示室）/14:30～講演会（ホール） | | | | |
| 27(金) | | | F3 | | |
| 28(土) | F4 | F5 | | | |
| 29(日) | V1 | V2 | | | |
| 2/3(金) | | | V3 | | |
| 5(日) | | | | V5 | V6 |
| 10(金) | | | V4 | | |
| 11(土) | V4 | V6 | | | |
| 12(日) | F3 | F4 | | | |
| 17(金) | | | F5 | | |
| 24(金) | | | V1 | | |
| 25(土) | | | | F6 | F1 |
| 26(日) | V2 | V3 | | | |
| 3/3(金) | | | V4 | | |
| 4(土) | | | | F2 | F1 |
| 10(金) | | | V5 | | |
| 11(土) | | | | F5 | F6 |
| 12(日) | V6 | V1 | | | |
| 17(金) | | | V2 | | |
| 18(土) | | | | F1 | F2 |
| 19(日) | | | | F3 | F6 |
| 24(金) | | | V3 | | |
| 25(土) | | | | F2 | F4 |
| 26(日) | 16:00～パフォーマンス（ホール） | | | V4 | |

※1月22日（日）14:00～ パフォーマンス「あいうえおん六面相」
「線としての映画」（B1映像展示室）
14:30～ 講演会「メタ・メディア」（1Fホール）
3月26日（日）16:00～ パフォーマンス「あいうえおん六面相」
「見ること・聞くことの構造」（1Fホール）
日程は変更される場合もあります。ご了承ください。

交通機関＝JR中央線・地下鉄有楽町線「市ヶ谷」駅下車（中央出口）徒歩7分（市ヶ谷テレビ局前）
お車でご来館の方は駐車場をご利用ください。


東京都写真美術館
東京都目黒区三田1-13-3 〒153
1-13-3 Mita, Meguro-ku, Tokyo 153
TEL 03-3280-0031（代表）